

上島町消防だより

全国消防救助技術大会へ出場！

第38回四国地区消防救助技術指導会

平成21年7月23日（木）、徳島県消防学校において四国地区内の消防職員約410名が参加し、救助隊員が日頃鍛錬した救助技術を披露する四国地区指導会が開催されました。

この大会は、陸上の部7種目、水上の部7種目で競技が実施され、当消防本部からも、陸上種目の「ロープ応用登はん」に濱田泰也消防副士長と森實宏行消防士が出場し、四国地区第2位（16チーム参加）と好成績ではありましたが、惜しくも全国大会への出場はなりませんでしたが、



スタートの合図とともに一気に4メートル近くまで駆け上がります！



陸上の部（応用登はん）
濱田泰也消防副士長（左）
森實宏行 消防士（右）

今後この大会に参加することによって、救助技術や体力の向上を図りながら、安全確実に迅速な現場活動が行えるように訓練を積み重ねてまいります。



スタート直前の表情（写真左）

残り5メートル地点の穂積消防士の気迫に満ちた泳ぎ（写真下）



水上の部（溺者搬送）
穂積雅晴消防士（右）
池上幸大消防士（左）

水上種目の「溺者搬送」に、穂積雅晴消防士と池上幸大消防士が出場し、四国大会1位（8チーム参加）の好成績で、見事8月20日（木）横浜市内で開催される「全国消防救助技術大会」に出場します。

全国大会での様子は10月号の広報で紹介いたします。

平成21年出動件数

年別	摘要	火 災	救 急
平成21年（7月）		0	41
平成20年（7月）		0	32
昨年比		±0	+9
21年累計		3	269

平成21年7月31日現在

火災・救急・救助は119番

※携帯電話からでもつながりますが、発信場所によっては他の消防本部につながる場合もあります。

上島町消防本部
77-4118(代)



7月8日に行われた生名橋建設に携わる方を対象とした救命講習の様子

消防署では、少人数からでも普通救命講習（3時間）を受付けています。心肺蘇生法の他にも、毛布を使用した搬送方法や三角巾を使用した固定方法など、実用的な救命講習となっていますので、気軽にご相談下さい。



9月4日から9月10日は「救急医療週間」

9月9日は、救急業務及び救急医療に対して皆さんの理解と認識を深めていただくとともに、救急医療関係者の意識の高揚を図ることを目的に、昭和57年に「救急の日」と定められました。

しまなみ農業だより

「たまみ」について



平成19年より始まった上島町特産かんきつ新品种「たまみ」プロジェクトも3年目となり、いよいよ結実を迎える樹も出てまいりました。今回はこれから収穫までの残り半年間で気をつけなければいけないポイントをまとめてみます。

「たまみ」果実の特徴をおさらい

これまでにわかっている若齢時のたまみの特徴を列記しておきます。

- 若齢時から着花が多い
- 初秋季の降雨などにより裂果が見られる場合がある。
- 群状結果すると中々小玉。結実数が少ないと大玉化。
- 中々小玉は引き締まった温州みかん型、大玉は果皮が粗く油胞が疎で浮皮になり、ス上がりしやすい。

○大玉ほど含種子数が多い。またじょうのう膜も硬く食味がやや劣る。

○枝梢が細長く葉、果実の重みで下垂しやすく、重すぎると折れる場合もある。

○果梗枝は細くヘタも小さいが熟すると黄変し樹上では落果、収穫後はヘタ落ちしやすくなる。

○果面はワックス層が厚く防鳥ネットのみで越冬できる場合もある。ただしネットや防寒のサニーマン等と擦れると黒変することもある。

○減酸は遅くL（温州みかん規格）果の可食期は概ね2月以降。

○前年に着果負担のかかった樹は樹勢が低下しやすく翌年着花しにくい。

○紅が濃く糖度が高いので鳥に食害されやすい。

これらの点から結実初年は特にし果を中心とした中玉生産に努め、販売時期を早くとも2



月以降、貯蔵温州が終盤を迎える時期以降に設定して競合を避けること、大玉果は加工用（同時に㈱いわぎ物産センターにて加工品開発のプロジェクトが進行中）、小玉完熟栽培は樹がもう少ししっかりしてから取り組んだほうが良いと考えます。初秋季の多少の裂果は着果負担がちゃんとかかっているところプラスに解釈し、ヘタ落ち防止、完熟栽培のためにはマデック散布が必須となりそうですが、効果未確認のため今後の課題とします。

平成19年春に配布された苗木

手持ちの苗木のうち半分は翌年より結実スタートとして全摘果しておきます。また、生育が遅れまだ小さな苗木であれば今年無理をして結実させることはしないでしよう。残りの半分について、原則として群状結果させること。早め摘果しておくのは主枝（樹勢確保のため）と第1亜主枝（垂れ下がる地面と擦れて正品にならない、枝つりでも救えない）の先端部。他は今後10月末をめどに少しづつ不良果を摘果するのが良いでしょう。9月以降から早めに支柱を準備し

し枝つりを行うこと。温州みかんの収穫終了と前後して防鳥、防寒を兼ねたサニーマン等による被覆を行うと良いでしょう。

平成20年春以降に配布した苗木（3年生）の場合

今年はまだ結実させず枝梢の生育を図った方が良いでしょう、秋口にもう一度見回り、摘果漏れの果実を落としてしまします。1樹に試しに数個結実させてみても、あまり良い成績は得られません。お楽しみは翌年以降に持ち越したほうが良いです。

